

くすのき

全国県学力調査結果版

今年の目標 … 「なりたい自分」になるために がんばることを決めて 取り組もう！



全国学力・学習状況調査の結果について

4月に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果（国語・算数・理科）についてお知らせします。この結果は学力の全てではなく一部ですが、この結果をしっかりと分析し、今後の指導に活かしていきたいと考えています。

1 全国学力量学習状況調査とは

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。

○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。

2 全国学力・学習状況調査の内容・実施時期

■調査対象 第6学年

■実施期日 令和7年4月17日（全国一斉）

■調査内容

○教科に関する調査【国語】【算数】【理科】

○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査→児童に対する調査・学校に対する調査【質問紙】

3. 全国学力・学習状況調査の結果

国語

福岡県平均をやや上回っています。

「読むこと」の領域では、登場人物の状況を把握し、行動の理由を理解する問題がよくできていました。また、「話すこと・聞くこと、書くこと」の領域では、聞き手の理解や注意を促すための、発表原稿の工夫を理解することがよくできていました。

一方で、「言葉の特徴や使い方」の領域では、主語と述語など文章の構成を捉えることに課題があります。これは、文法用語の意味や役割を十分に理解していないことや、日常的に文を組み立てて話す・書く活動が不足していることが原因であると考えます。

算数

福岡県平均をやや上回っています。

「図形」の領域では、ある単位で表された面積を、異なる単位で表すときの正しい数を選んだり、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を示した図に対応する式を選んだりする問題がよくできていました。

一方で、「数と計算」領域では、工夫して計算したときに使った計算のきまりを選ぶ問題に課題がありました。これは、四則計算の交換法則、分配法則についての理解が不足していることが原因であると考えます。

理科

全国平均とほぼ同じでした。

「生命」を柱とする領域では、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することはよくできていました。また、顕微鏡を操作し適切な像にするための技能はよく身につけていました。

一方で「エネルギー」を柱とする領域では、乾電池のつなぎ方についてや、電流がつくる磁力についての知識に課題があります。これは、観察や実験での結果のみ覚えて、どうしてそうなるかの理由や考察が不十分であることが原因であると考えます。また、回路図や模式図などを正確に描いたり、読み取ったりする経験が不足していると考えます。

児童質問紙（生活や学習についての意識調査）

【質問紙より本校児童のよさと課題】

- ◇「夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」児童の割合が県や全国よりも高く、自己肯定感や自己貢献感の高さがうかがえます。
- ◇「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「話合う活動を通して、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする」児童の割合が県や全国よりも高く、学ぶ意欲の高さがうかがえます。
- ◆「読書が好き」「平日の家庭学習が1時間以上」の児童の割合が低く、授業時間以外で進んで学習する習慣が定着していないと言えます。

今後の取り組み・ご家庭へのお願い

○学校の取り組み

- ◆国語の結果から見える課題は、事実と感想、意見などの関係を抑え要旨を把握することです。課題解決のために、文章の要旨を短い文章でまとめたり、自分の考えを根拠を基に短く書く場面を増やしたりしていきます。
- ◆算数の結果から見える課題は、求め方を数や式、言葉を用いて説明することに課題があります。課題解決のために、考えを言語化する習慣をつけ、条件に当てはめながら順序立てて書く場面を増やしていきます。また、算数用語や公式などを覚えるために、繰り返し暗唱させたり、タブレットを活用して個々の習熟度に合わせたドリル学習を取り入れたりします。
- ◆理科の結果から見える課題は、エネルギー領域における実験操作と結果の因果関係を結びつけて考えることです。課題解決のために、実験の前後で「予想→検証→理由づけ」を丁寧にさせたり、回路図を描く活動を重ねたりして、「なぜそうなるのか」を問う発問・言語活動の充実を図ります。
- ◆児童質問紙の結果から見える課題については、朝の読書タイムやチャレンジウィーク等を活用し、読書経験を豊かにしたり、自分で計画を立てて勉強したりすることができるよう指導していきます。

○ご家庭へのお願い

本年度の学力調査における児童質問紙では、「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがある」といった自尊感情の高まりが、全国と比べて高い傾向にあります。自分の感じたこと・考えたことを受け入れられる経験が、自己肯定感や夢・目標の意識につながります。今後も、ご家庭での温かい励ましをお願いします。

一方で、「読書は好き」「平日の家庭学習時間の確保」といった家庭学習習慣の定着は、福岡県と比べて低い傾向にあります。これらは学力の定着と関係が深いということが全国調査から分かっています。そこで、保護者の皆様に、家庭学習習慣を定着させるためにご協力をお願いします。

・学年×10分+10分、家庭で机につくようにさせてください（塾や家庭教師も含む）。

（例）6年生の場合 $6 \times 10 + 10 = 70$ 分

・上記の時間は、宿題をする時間も含めます。したがって、宿題が早く終わった場合、自分で決めた課題に取り組むよう、学校でも指導しますので、ご家庭でもお声かけください。

・チャレンジウィークは、「自分で計画を立てて家庭学習をする」よい機会です。チャレンジウィークの取り組みが、お子さんの家庭学習習慣の定着につながるよう、働きかけをお願いします。

・小さな達成感を味わえるように、小さな成果を褒めたり励ましたりして、勉強に対するポジティブな気持ちを育てましょう。

・勉強の成果だけではなく、「思考したこと」「挑戦したこと」「楽しんだこと」など、行動の中身に注目してあげましょう。

これからも学校では、すべての教職員が課題を共有し、その解決に向けて力を合わせて取り組んでいきます。子どもたちの心の成長と学力の向上のために、学校・ご家庭・地域が一体となって、引き続き教育にあたっていきたいと考えています。

保護者の皆さまのご理解とご協力を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

福岡県学力調査の結果について

5月に5年生を対象に行われた福岡県学力調査の結果（国語・算数）についてお知らせします。この結果は学力の全てではなく一部ですが、この結果をしっかりと分析し、今後の指導に活かしていきたいと考えています。

1 福岡県学力調査とは

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、各学校が児童の学力の状況を把握することで、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。

2 福岡県学力調査の内容・実施時期

- 調査対象 第5学年
- 実施期日 令和7年5月19日
- 調査内容 ○教科に関する調査【国語】【算数】【児童質問紙】

3. 福岡県学力調査の結果

国語

福岡県平均をやや上回っています。

「読むこと」の領域では、登場人物の状況を把握し、行動の理由を理解する問題がよくできていました。また、「話すこと・聞くこと、書くこと」の領域では、聞き手の理解や注意を促すための、発表原稿の工夫を理解することがよくできていました。

一方で、「言葉の特徴や使い方」の領域では、主語と述語など文章の構成を捉えることに課題があります。これは、文法用語の意味や役割を十分に理解していないことや、日常的に文を組み立てて話す・書く活動が不足していることが原因であると考えます。

算数

福岡県平均をやや上回っています。

「図形」の領域では、ある単位で表された面積を、異なる単位で表すときの正しい数を選んだり、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を示した図に対応する式を選んだりする問題がよくできていました。

一方で、「数と計算」領域では、工夫して計算したときに使った計算のきまりを選ぶ問題に課題がありました。これは、四則計算の交換法則、分配法則についての理解が不足していることが原因であると考えます。

2. 今後の取り組み、ご家庭へのお願い

○学校の取り組み

- ◆国語の結果から見える課題は、主語と述語など文章の構成を捉えることです。課題解決のために、「主語」「述語」など文の構造を理解し、正しい言葉で自分の思いや考えを伝える場面を増やしていきます。
- ◆算数の結果から見える課題は、四則計算の交換法則、分配法則などの基本的な性質が定着していないことです。児童が自分の言葉で、立式や計算方法など考えたことや工夫したことを説明する機会を設けていきます。

○家庭へのお願い

本年度の学力調査における児童質問紙では、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標をもっている」といった自尊感情の高まりが、福岡県と比べて高い傾向にあります。自分の感じたこと・考えたことを受け入れられる経験が、自己肯定感や夢・目標の意識につながります。今後も、ご家庭での温かい励ましをお願いします。

一方で、「勉強することが楽しい、好き」といった学習意欲、「平日の家庭学習時間の確保」といった家庭学習習慣の定着は、福岡県と比べて低い傾向にあります。これらは学力の定着と関係が深いということが全国調査から分かっています。

そこで、保護者の皆様に次の点についてご協力をお願いします。

①学習意欲を高める

- ・小さな達成感を味わえるように、小さな成果を褒めたり励ましたりして、勉強に対するポジティブな気持ちを育てましょう。
- ・勉強の成果だけではなく、「思考したこと」「挑戦したこと」「楽しんだこと」など、**行動の中心**に注目してあげましょう。

②家庭学習習慣を定着させるために

- ・学年×10分+10分、家庭で机につくようにさせてください（塾や家庭教師も含む）。
（例）5年生の場合 $5 \times 10 + 10 = 60$ 分
- ・上記の時間は、宿題をする時間も含まれます。したがって、宿題が早く終わった場合、自分で決めた課題に取り組むよう、学校でも指導しますので、ご家庭でもお声かけください。
- ・チャレンジウィークは、「自分で計画を立てて家庭学習をする」よい機会です。チャレンジウィークの取組が、お子さんの家庭学習習慣の定着につながるよう、働きかけをお願いします。

これからも学校では、すべての教職員が課題を共有し、その解決に向けて力を合わせて取り組んでいきます。子どもたちの心の成長と学力の向上のために、学校・ご家庭・地域が一体となって、引き続き教育にあたっていきたいと考えています。

保護者の皆さまのご理解とご協力を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。